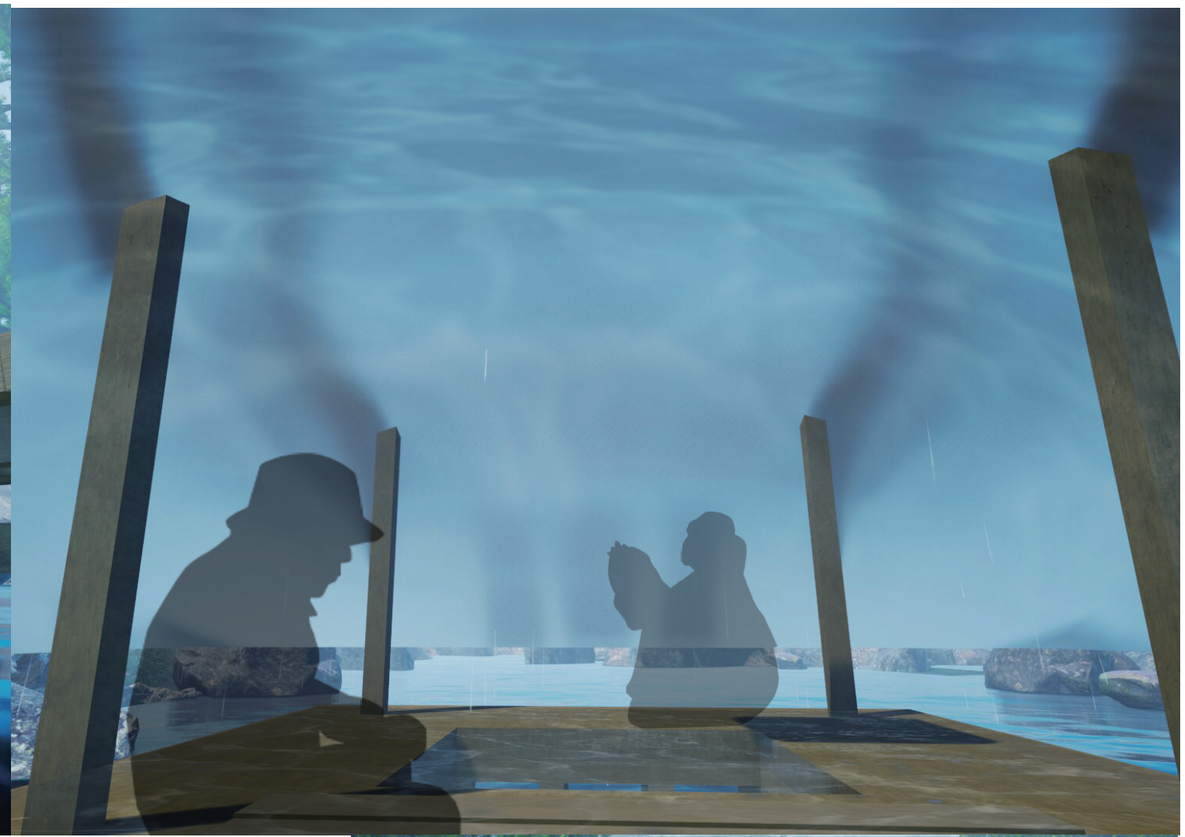
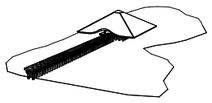
水面庵

～水面を映す、陰翳を眺む～



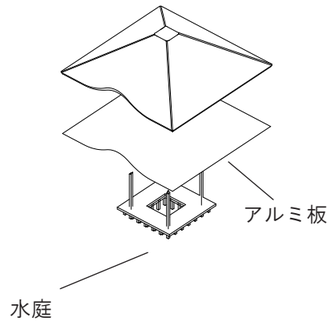
手法　水面庵（minamo-an）

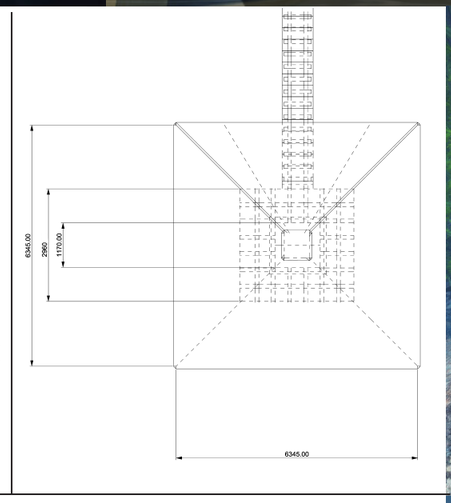


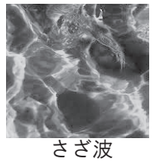
「水の面に照る月波をかぞふれば今宵ぞ秋のもなかなりける」という和歌があるように日本人は古くから水面に思いを馳せてきた。この提案では水上に水面の陰翳を愉しむための庵を設計する。

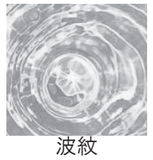
場所は京都東山慈照寺にある錦鏡池を選んだ。水の光を反射させるため軒を広く取り天井にアルミの曲面状の屋根を設置する。また内部からも採光できるように床の中央に『水庭』を設けた。そして周囲の庭園や東求堂に馴染ませ、また水面との距離を近くするため高さはなるべく抑えた。

アルミニウムの天井に映る水面が描く光は幻想的な空間を創出し、先人たちが水面に対して抱いてきた感情を追体験することができる。また天候や風の具合、鯉や落ち葉の動きによって天井に映る光の様相が変化し、その移り変わりを体感することができる。

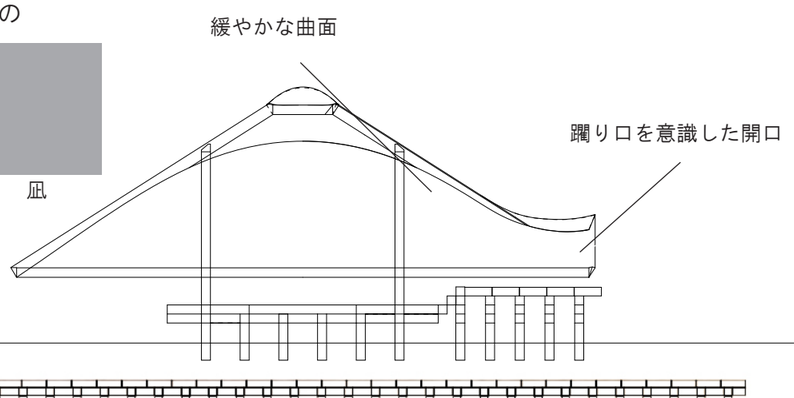
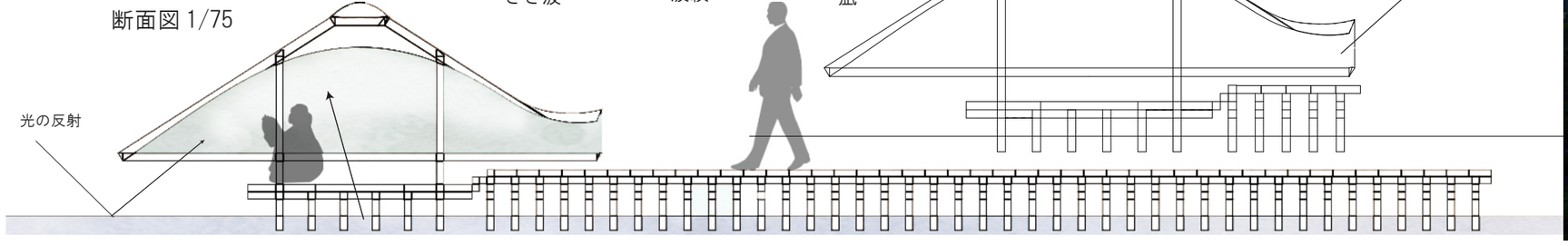





さざ波


波紋

凪



断面図 1/75